

オルビス、「山梨県環境保全功績者表彰」を受賞 山梨県での13年間にわたる環境保全活動が認められ県知事より表彰

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:町田恒雄)は、山梨県における一連の環境保全活動が認められ、「山梨県環境保全功績者表彰」を受賞、2014年6月7日(土)、山梨県甲斐市敷島総合文化会館・大ホールにおいて山梨県知事より表彰されました。

オルビスは山梨県内の環境保全活動に対して2006年にも県知事からの感謝状を授与されており、その後の更なる活動が評価され今回の受賞に至りました。



オルビスは1987年の創業以来、常に事業と一体化した環境負荷の低減に努めていますが、社員一人ひとりが環境活動に関わることに意義があると考え、2002年より公益財団法人オイスカ、山梨県との協働による社員参加型の森づくり活動を開始しました。以降、現在に至るまで毎年2回、春と夏に全社的な環境保全イベントを実施、グループ会社の従業員や家族を含む多数の社員ボランティアが参加して植林や下草刈りなどの作業に汗を流しています。これまでに山梨県内の「武田の杜」「富士山」「甲州市」の3箇所で森林整備活動を実施しており、延べ植林本数は15,000本を超えています。

【オルビスの森づくり活動について】

【武田の杜(山梨県甲府市)】 *2002年~2013年

松喰い虫の被害に悩んでいた「武田の杜」を整備し、市民の憩いの場所にしたい、という山梨県からの依頼を受け、公益財団法人オイスカと三位一体となった協働事業をスタート。春は植林、夏は下草刈りという形で毎年整備を続けた結果、荒れていた森も今ではアジサイの名所として多くの県民が集うまでに生まれ変わりました。

【富士山の森づくり(山梨県鳴沢村)】 *2007年~

世界遺産にも登録された富士山ですが、病害虫によって約100haにも渡り人工林が枯死した場所があり、自然に近い形に再生すべく、行政、NGO、10社以上の企業に加え、地元林業従事者や森林の専門家も加わった大規模な協働プロジェクトがスタートしました。植林自体は2011年に終了していますが、鹿の食害などもあり、苗木の安定的な育成のために今後も継続的な支援をしていく予定です。

【甲州市・オルビスの森 里山計画(山梨県甲州市)】 *2012年~

かつてレジャー施設の建設予定地で計画中止とともに荒廃してしまった森を再生するために、甲州市やオイスカと甲州市里山創造推進協議会を設立。市有林約100haを「甲州市・オルビスの森」と名付け、人々が集い自然と親しむ里山として整備します。

多種多様な樹木を混在させた「モザイク状の森」をつくり、多様な動植物と人が共生する場所として、地域の方々を含めた交流の場、学習の場としての活用を目指しています。



【本件に関するお問い合わせ先】(株) ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室

Tel 03-3563-5540 / Fax 03-3563-5543